

1 活動名

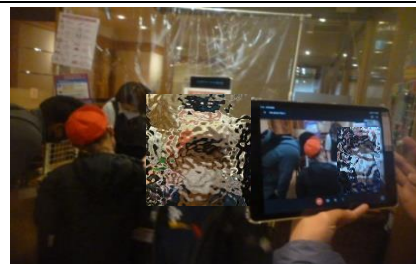
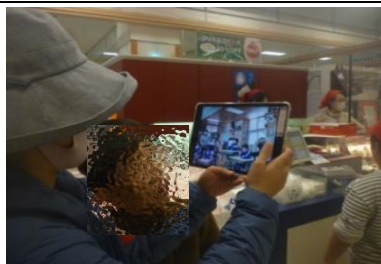
テイクアウトをしよう(生活単元学習)

2 対象

小学部 5, 6年生

3 内容と取組の様子

- ・例年は学習発表会後に、近所の飲食店で食事をしながらの校外学習を計画していたが、今年度は新型コロナウイルスの影響により中止となった。代替案として、近くの飲食店のテイクアウトを利用する計画を立てた。密を防ぐため、テイクアウトを取りに行く児童と、学校で待機する児童(体調に不安がある児童含む)に分かれ、学校で待機する児童は友達が購入している様子をオンラインで見学した。



購入している児童が自分から友達に呼び掛けたり、待っている児童が手を振ったりと、自然な関わりが生まれていた。

4 使用したツール(システム・アプリ・ソフト・教材等)

iPad (セルラーモデル含む) 2台, 移動式大型テレビ, Google Meet

5 おすすめポイント

- ・リアルタイムでつながることができ、お互いの活動を共有できた。
- ・校外に出た児童には、「友達が見ている、待っている」と実感でき、買い物学習としてもより意欲が高まり、「役割を果たそう」という責任感が生まれていた。
- ・学校で待機していた児童は、画面を通しての友達からの呼び掛けや、自分の頼んだ物が買われている場面を見ることで、より期待感が高まっていた。

6 さらに工夫したいこと

- ・iPadでのMeet画面は、相手側が大きく、自分側は小さく表示される。表示画面の大きさ調整はできないので、そのまま使用した。試しに最後はZoomでつなぎ、双方向を同じ大きさの画面で表示したところ、児童の集中がより上がった。相手だけでなく、自分も見やすく映ることで、友達とつながっている実感がもてたようだ。
- ・児童の実態に応じて、iPadによるアプリの使い分けを検討する必要があると感じた。
- ・今回は「特別支援学校 ICT 機器推進事業」により1年間のみ配布されているセルラーモデルのiPadを使用した。児童の様子を見ると、校外でつながることで学習の機会が広がると改めて感じた。